

# まえばしの 哺乳類・は虫類・両生類

～ 平成 27 年度前橋市自然環境調査（哺乳類・は虫類・両生類）概要版 ～



水と緑と詩のまち

 前橋市  
Maebashi City

## 調査の目的

私たちのまち前橋は、雄大な赤城山を背景に利根川、広瀬川などの美しい流れと緑豊かな自然に恵まれています。この環境を楽しみ、守り、育て、将来の世代に引き継いでいくことは、私たちに与えられた権利であり、責任でもあります。

前橋市では、そのための取り組みの一つとして、自然環境基礎調査を平成 9 年から 10 年にかけて行い、市内でみられる様々な動植物（植物、鳥類、魚類・水生生物、哺乳類・は虫類・両生類、昆虫類）の把握に努めました（大胡・宮城・粕川地区では平成 17 年、富士見地区では平成 22 年に実施しました）。

今回の調査は、前橋市の目指す環境像である『多様な生態系が維持され、市民に潤いと安らぎを与える自然環境が守られ、はぐくまれるまち』と、『市民、事業者が主体的に環境保全活動に参加するまち』になるため、自然環境の今の姿を把握し、これまでに行われた調査との比較をするために哺乳類・は虫類・両生類の調査を行いました。

## 調査の概要

平成 27 年度は、哺乳類・は虫類・両生類を対象として調査を行いました。

調査時期は、初夏から秋季にかけて、哺乳類が 2 回、は虫類・両生類が 2 回の計 4 回実施しました。

調査方法は、現地踏査、トラップ調査、自動撮影調査、夜間調査等を専門家が行い、確認した哺乳類・は虫類・両生類の名前や生活の様子を記録しました。

このほか、市民調査（自然観察会）を秋季に 1 回実施しました。

調査時期と調査期日

対象	調査時期	調査期日
哺乳類	夏季	6月22日～26日
	秋季	9月28日～10月6日
は虫類・両生類	初夏	5月25日～29日
	夏季	7月21日～25日
市民調査 (自然観察会)	秋季	9月13日

主な調査方法

現地踏査	トラップ調査	自動撮影調査	夜間調査
調査地点内を歩きながら生きものを探します。足跡や糞等の痕跡も併せて記録しています。	生け捕り用の罠を設置してネズミ類を捕獲します。捕獲したネズミは計測後に放します。	けもの道に自動撮影装置を設置して夜行性の生きものを撮影します。	コウモリやヤモリ等の夜行性の生きものや、カエルの鳴き声を観察します。
			

## 調査地点とその環境

これまでに調査した市内 27 地点のうち 16 地点を選び調査を行いました（数字が地点番号を示します）。前橋市は、市内北部に位置する赤城山から市内南部の平地にかけて緩やかに傾斜しており、その中に、樹林、河川、池沼、耕作地（水田・畑）、市街地等の様々な環境をもっています。調査地点を環境（植生等）のタイプ別に、以下の 4 つのグループに分けました。

No.20、No.21、No.26、No.27 の 4 つは、市内北部に位置しており、豊かな樹林に囲まれた「**樹林が多い地域**」です。

No.5、No.7、No.18、No.22 の 4 つは、市内中央部に位置しており、里山環境を有する「**樹林・耕作地など環境が多様な地域**」です。

No.1、No.10、No.11、No.13、No.24 の 5 つは、市内南部に位置しており、「**耕作地（水田・畑）が多い地域**」です。

No.3、No.9、No.16 の 3 つは、市内南部の市街地に位置しており、「**住宅地など建物が**多い地域」です。

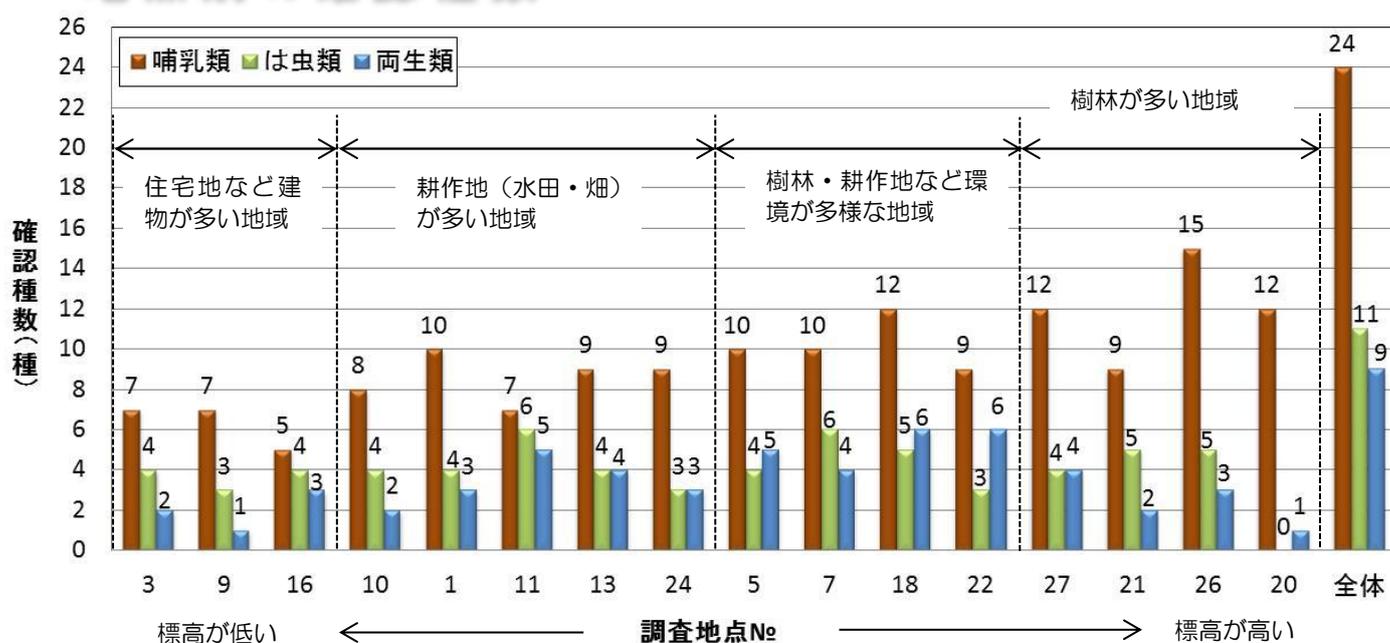
### 調査地点の位置図



## 調査結果

調査の結果、全 16 地点で哺乳類 24 種、は虫類 11 種、両生類 9 種が確認されました。市内北部の山地の樹林に生息する種から、市内南部の平地に生息する種まで多様な種が確認されました。地点ごとの確認種に多少の変化はあるものの、種構成や生息環境を見る限り、過去の調査と比較して大きな変化はみられませんでした。このことは、前橋市の生物相（哺乳類・は虫類・両生類）が良好に保たれていることを示していると考えられます。

### 地点別の確認種数



確認された種をみると、アズマモグラ、アカネズミ、タヌキ、キツネ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ等は市内全域で確認されましたが、ノウサギ、テン、ホンドジカ等は主に市内北部で、アライグマ、イタチ、ニホンアマガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル等は主に市内南部で確認されました。

また、ムササビ、ツキノワグマ、カモシカ、タゴガエル等の山地や樹林に生息する種は、「樹林が多い地域」で、カヤネズミやニホンアカガエル等の里山環境を好む種は、「樹林・耕作地など環境が多様な地域」で、ハツカネズミのような、荒れ地や耕作地を好む種は「耕作地(水田・畑)が多い地域」で、ニホンヤモリのような市街地や人工構造物に生息する種は「住宅地など建物が多い地域」で確認されました。それぞれの環境に特徴的な種が確認されており、多様な環境をもつ前橋市の環境を反映した調査結果が得られました。



タヌキ



ヒガシニホントカゲ

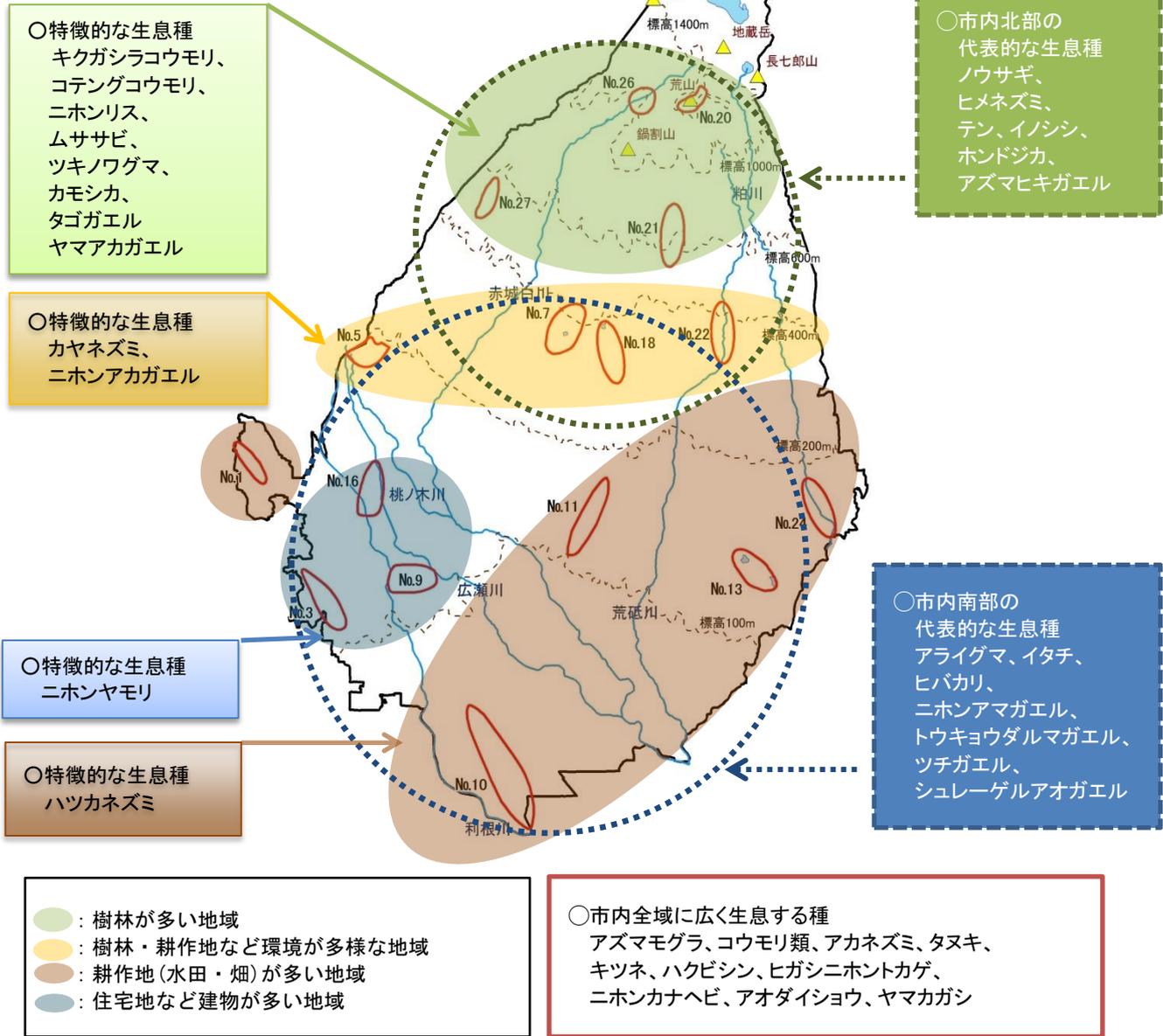


アオダイショウ



ヤマアカガエル

# 調査結果の概要



## いろいろなコウモリ

日本国内にはおよそ40種のコウモリが生息しており、群馬県内でも10種以上のコウモリが確認されています。今回の調査では、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、コテングコウモリの3種類のコウモリが確認されました。これらのコウモリは昆虫類を餌としています。餌を捕る場所やねぐらの好み異なります。キクガシラコウモリは樹林内でガやコウチュウ等を捕り、洞窟をねぐらとしています。モモジロコウモリは、河川や池等の上空でトビケラ等を捕り、洞窟をねぐらとしています。コテングコウモリは、樹林内でガ等を捕り、幹の穴や樹皮の隙間をねぐらとするなど、種類によって様々な生態がみられます。

市内に様々なコウモリが生息しているということは、前橋市の自然環境が多様であることを示しているといえます。







## 市民調査

平成27年9月13日にサンデンフォレストで市民調査（自然観察会）を行いました。サンデンフォレストの自然環境保全への取り組みについて学んだり、敷地内のビオトープで生きものを観察したりしました。

### 市民調査の概要

項目	概要
イベント名	・市民自然観察会
実施日時	・平成27年9月13日 9時半～12時
実施場所	・サンデンフォレスト（前橋市粕川町中之沢7番地）
参加者	・19名
内容	・サンデンフォレストの経緯（ビデオプログラム） ・サンデンフォレストに生息する動物（ビデオプログラム） ・ビオトープ見学（現地散策）
観察した生きもの	・ムササビの食痕 ・ニホンカナヘビの成体・幼体 ・ヒバカリの幼体 ・ヤマカガシの成体 ・ニホンアカガエルの成体・幼体 他



市民調査の様子

## 前橋市環境部環境政策課

〒371-8601 前橋市大手町二丁目12番1号

電話：027-224-1111

表紙の写真：アカネズミ（上段右）、ニホンカナヘビ（中段右）、覚満淵（上中段）、  
ニホンアマガエル（下段左）、ホンドジカ（下段中央）、荒山登山道（下段右）  
背表紙の写真：市民調査の様子（左から3枚）、ヒバカリ（右）